



NPO☆Kyoken通信

特定非営利活動法人教育研究所発行 116号 平成26年12月11日発行

宇奈月自立塾 〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉5509-16

本部 〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20
TEL: 045-848-3761/FAX: 045-848-3742
URL: <http://kyoken.org/>

TEL: 0765-62-9681/ FAX: 0765-62-1120
E-mail: contact@kyoken.org

にかわサポートステーション 〒938-0037 富山県黒部市新牧野103 ファーストビル3F

TEL: 0765-57-2446/FAX: 0765-57-2447

mail: info@niikawasaposute.org

10月末、発行の予定の教研通信は、諸事情により、大幅に遅れて、発行が師走になってしまいました。お詫び申し上げます。

師走の衆議院選挙、2年前と同じ、来年度の予算が練られ決められるこの時期、果たして、本当に国民のために行われるのか、色々な疑問が生じますが、お上が決めたことですね。

本当は、お上なぞ、いない、民主主義の国であり、主権は国民にあるのだと主張したくなるのですが、投票率をみる限り、特に若者はその主権を果たしてないように思えます。

若者は今、弱者です。しかし、若者支援の予算は限りなく少ない。若者の健全育成や若者の就労支援は次世代への投資であるのですが、若者の支援予算を作っても票には結び付かないという政治家の意識を作りだしたのは、若者達自身なのかもしれません。

若者よ！それぞれの政党の選挙公約を読んで、自分自身の意思で投票に行きましょう。

最後に会員の皆さま方、どうぞ、良いお年をお迎えください。

雑感 「思想は日常性によって決定する」今日の言葉、(牟田武生語録より)

富山にはぐれ雲という、不登校・ひきこもり・ニートの支援を共同生活しながら、農業を通して自立支援を行う、団体がある。その責任者は川又直さんと奥様、内閣総理大臣賞も頂いたこともある。キワメテまっとうな夫婦である。その半生を描いた素敵な本が出版された。

「田んぼの真ん中、はぐれ雲」～自立する若者たち～

日本評論社編集部編(1200円+税)2014年11月30日出版

夫婦の子どもや若者を見る眼差しが優しく柔らかい。子どもが育つということを原点から教えてくれる本である。そして、川又さんは、何も特別なことをやっているわけではない。人として当たり前のことをやっているだけと言い切る。なかなか、言えない言葉であり、実行できないことである。

だが、本を読み進めていくと、私も知っている方が、残念なことに…。

これらの仕事にまっとうに命をかけ、責任を持ち、ひとり一人に応じた支援を行った人の多くの指導者、私より、皆若い、40代、50代に、ストレス病気等で命を落としていった。つくづく、不条理なことだと考えさせられてしまった。それらの方の冥福を祈るしか私にはできない。

今後の若者の自立支援の在り方と支援団体はなにをすべきか(1)

教育コンサルタント 牟田武生

財政危機、予算にメリハリを！

国の借金が 1000 兆円を超した。年間予算 100 兆円だから、10 年分の国家予算にあたる。その額の大きさに驚く、しかも年間予算の 50%強しか自主財源はない。借金の利息を考えなくても、毎年、この借金の上に 50 兆円上積みされていく。

政府・日銀は財政の健全化の計画表ともいべきプライマリーバランスを 2020 年までに達成させるという。これはこれ以上、この状態が続けば、国債等の借金で国の財政が破綻することを意味している。

しかし、あと、本当に 5 年間で赤字から黒字に転換させることはできるのだろうか、その明確な方針は、いまだに説明されていない。国民のタンス預金が 1000 兆円あるという見込みから考え、財政の破綻の可能性はないだろうが、一番現実的に可能性があるのは、膨大な借金が次世代ともいべき若者に引き継がれるということである。

それを少しでも緩和させるために、時代の流れにそって幾つかの政府の考えの方向性が見えてきた。平成 27 年度から予算は徹底して見直されることになる。予算のメリハリをつけると、いうことである。

ニート支援の目玉であった若者自立塾は、民主党の事業仕分けにおいては、初日の 1 番目に事業仕分けの対象になり、いの一に廃止された。その後、子若法によって、ひきこもりに関するものは、ひきこもり地域支援センターができ、保健、医療、福祉としての相談窓口はできたが、力量不足と単独事業なので、十分な活動ができているとは言い難い。

少子化社会で次世代の働き手は、若者である。しかし、長引く、デフレスパイラル、さらなる、安倍政権化の中で、金融緩和という為替相場による、円安誘導によって大手商社と大企業はその恩恵にあやかり、輸出利益を上げ、それが、少々の雇用を生み、賃金上昇に繋がった。しかし、その恩恵は中小企業に働く人や非正規で働く人には、物価上昇、消費税 UP を生み、格差社会はさらに拡がりつつある。

特にリストラされた世帯主層と若年者は深刻である。

34 歳未満の若者、男 47%、女 37%が非正規労働者であり、20 代の年収、300 万未満 33%、400 万未満 39%である。(出典：総務省労働力調査 2014 年 7 月～9 月速報値)

また、失業率 20 歳～24 歳 34 万人 (7.9%)、25 歳～29 歳 39 万人 (6.4%) である。ひきこもりは 70 万人 (15 歳～39 歳未満) である。(出典：内閣府子ども・若者白書 25 年版)

ひきこもりに関しては 40 歳代にも、ピークがあることが昨年厚労省委託調査でもわかり、100 万人を超えていると考えられている。

しかし、経営者団体や労働者団体では、ニートやひきこもりは働く気がない者で、裕福な層の子どもや若者が中心ではないのか、そんな、若者に税を使い支援する必要はないとする意見が多く寄せられたのも一因になり、若者自立塾は事業仕分けされ、地域若者サポートステーションの事業も現在では継続が危ぶまれている。これが、なくなれば、ニートやひきこもりに関しての労働施策としてのニート・ひきこもりの国の支援は終わってしまう。

生活困窮者自立支援法

あたらしい国のセフティーネットとして、生活困窮者自立支援法が26年度に成立し、27年4月から施行される。増え続ける生活保護者、生活困窮者を支援し、過去の福祉づけともいわれる対応から労働年齢で働ける人達には、自立を支援していこうとするものである。

ニートやひきこもりもこのまましていたら、これらの対象者になり、国民からの預かりもの税の一部を使い果たす可能性があるから、この法案の中に入れて対応していこうとするものである。

この法案を有効にするため、ひきこもりに関して山形県と島根県が民生委員の協力で、独自調査を詳細に行った。その結果、山形県内のひきこもり総数は1607件、ひきこもりになった理由として、不登校から244人(15%)就職できず135人(8%)失業408人(25%)家族関係141人(9%)不明573人(36%)その他191人(12%)無回答51人(3%)であった。島根県でも同じような結果だが、ひきこもりの人の半数が40歳以上だった。

従来経営者・労働界が主張していた、ニート・ひきこもりは裕福階級の一部の怠け者ではない。就職困難が33%もあり、地方でも町よりも過疎地域に多いこともわかった。それらの者は、発達障害を抱えていたり、仕事を町に出て探したいが、両親等の介護をしなければならない事情を抱えている若者である。

さらには、長時間労働の結果、身体を壊し、精神的に病む若者もいる。

昭和時代、当時文部省は、登校拒否は特定の子どもや家族の起こるとしたが、平成4年に、どの子にも起こりうる、学校教育にも要因があるとした。同じように社会環境によって、ひきこもりは、誰にでも起こりうる、会社や産業界にも要因があるとしなくてはならなくなった。

やはり、不登校・ひきこもりは日本特有の意識と社会構造から起こる問題なのかもしれない。ちなみにひきこもりが増加していた韓国では、今は大きな社会問題ではなくなって来ているが、精神障害者にすり替えることによって、新たな問題が子どもや若者に起きている。

社会的排除からソーシャル・インクルージョン（内包社会または社会的包摂）へ

民主主義が定着しない以前の世界では、障害者、老人、伝染病患者、被爆者、出生地、家柄等によって、社会的に排除されるといった差別を受けていた。

しかし、現在でも犯罪、非行歴のあるもの、ホームレス、アルコール依存者、薬物依存者、ひきこもり、不登校、高校中退者、通信制高校卒業生、夜間高校卒業生、特別支援学校卒業生、課題集中校卒業生等は目に見えない形だが、様々な方法で社会的な排除を受けやすい。

全ての国民は平等であり、最大多数の最大幸福が民主主義の一つの目標であるならば、人間として社会的な排除をされるべきではない。国民あるいは地球市民という考えの基に、それらの問題は全ての人々の共通の課題という認識に立ち、EU諸国ではソーシャル・インクルージョンの考え方が定着しつつある。

その考え方に立ち、不登校、新たな貧困層としてのひきこもり、ニート、非正規雇用者と生活保護者、生活困窮者を社会的に排除するのではなく、社会が包摂していこうとしている日本の取組が、平成27年4月から始まる生活困窮者自立支援法である。

財源が枯渇しているのになんでそんな金のかかることを行うのかの疑問を持つ方もいるのは当然だと思う。それを実行するために、小さな予算で行い、支援された者は、将来はそれぞれ、得意のとする分野で自立して、所得税として還元すればよい。

そのエンジンになるのが、私事化（プライバタイゼーション 経済用語では民営化）である。社会が

平和に安全にしかも、明日の衣食住には困らない絶対的貧困から脱し、成熟社会に移行していくと、公（国家）よりも私（個人）に人々の関心が向かう。

それを社会学では、私事化社会と呼ぶ。日本では70年代に、国が抱えていた日本国有鉄道をJRに、日本電電公社をNTTにして、民営化を図った。これは、国が抱えると借金になる、民営化して財政から引き離し、軽量化するためでもあった。大きな政府から小さな政府への移行でもあった。

その私事化の流れは人々の意識構造にも変化を持たせ、滅私奉公は過去の戦時中の考えとされ、滅公活私の時代になった。学校教育でも、学ぶことは人格の完成と社会形成者になる。

明治時代は、大学に進学する青年に対して、末は博士か大臣か、と言われた。

そして、戦後になり、よい高校は一流大学、大企業就職、よい人生が王道された。

教育＝学歴という誤った考えが浸透し、個人の出世の道具になり果ててしまい。学校教育も受験のための知識詰め込み教育が善とされてしまい。それが、欧米社会に追い付け追い越せの時代には一見合理的にみえたが、経済的にトップクラスになると、新たな発想力や問題解決能力が育ってないために、経済的にもいきづまりを見せた。

この秋、文科省は、やっと、重い腰を上げ、学校教育を自主的・自発的に考える内容に変え、8年後には大学の入試の内容を変えるという。私の知っているカナダでは詰め込み教育から問題解決能力を育成する教育に要した時間は38年だった。果たしてこの改革、たった8年でできるのか、ゆとりの教育でかなりの授業時間が現場に任せられ、自由に発想して教育を行ってよいとされたが、多くの先生方は文科省はじめ政府の批判のための批判はするが、新たな改革を提案したり、実行する能力は詰め込み受験教育で育ったためか、全く能力がなかった。

ゆとりの教育は実は、現場教師の能力不足のための失敗であった。そのような先生方が果たして8年間で実行できるのか、しかし、もう、日本に残された時間がない、是が非でも滅私奉公とまではいかななくてよいが頑張してほしいものである。

公が全てを丸抱えすると、莫大な予算がかかる。成熟社会の成長によって、公が行っていた仕事を民が変わって行えば、少しの予算でできる。そのために生まれたのが、特定非営利活動法人（NPO）である。NPOに出来る範囲の機能を移し、公との共同事業を行う時代になった。

（次回につづく）



宇奈月自立塾のこれから…

宇奈月自立塾 牟田 光生

宇奈月自立塾も開所9年を過ぎ、来年は節目の10周年！

宇奈月自立塾も開所9年が経ち、来年は節目の10周年を迎えます。様々な事が挙げられます。AHEビルの融資返済も来年で終え、経済的に一息つける事が出来れば…と思います、が、若者の支援はこれからです。

来年度10周年で色々と振り返りながら「宇奈月の10年」を書いていこうと思っておりますが、今回は「今後の宇奈月自立塾」を書いていきたいと思っております。

現在、皆さま方の協力の元、市役所・保健所や病院・社会福祉法人等へのリファー、体験企業や就労している企業、中高等学校等との連携支援などおかげさまで連携先の数は大変増えており、その数や質は他サポステと比べ優れている部分があり、皆さまの協力と月日の積み重ねだと感じております。

足りない部分は何か？

今、世の中アルバイトの時給が上がってきております。業種・地域によって格差はありますが、平均的に都市部で1000円前後、地方で900～950円程と言われ、最低賃金での時給も上がってきております。

(富山県で728円)なぜ？時給が上がっているのか？

経済効果的な部分より、団塊世代の本当の引退による日本人の人手不足が挙げられます。団塊の世代が60歳定年退職し、年金受給までの5年間臨時雇用で勤め上げ、それらの人々が本格的に年金生活に入りました、団塊の世代引退による2007年問題や2012年問題等と言われ、結局影響は無いと言われてきましたが現実には労働者が100万人近い数字で居なくなっており、人材不足問題に対応出来ない会社、主にアルバイトが現場を担っていた飲食等のサービス業系が慢性的な人手不足に陥っています。

外国人の研修制度を利用した雇用もありますが、失われた20年の日本に対し、アジア系の発展途上国は色々ありますが経済成長を遂げており、昔ほど日本に来るメリットは少なくなっております。他にもありますが、最低時給が上がるのは良い事ばかりではありません。簡単に言えば、時給以上の仕事をしなければならぬのが、会社の仕組みです。

私達が関わっている若者達はスタッフや他の人との人間関係の形成が出来てきたり、自分の居場所を見つけられれば力を発揮出来ますが、どんな環境・場所でも力が発揮できるふてぶてしい位の子達ではありません。

家庭ではふてぶてしい部分もあると思いますが、それは関係性が深いからで、他の場所に行って直ぐに溶け込め力を発揮できるわけではありません。

勿論、サポステ・宇奈月自立塾でも就労体験を企業にお願いして行っております。お土産を貰ってくる事はありますが、賃金は発生しておりません。

私達は本当の体験、経験を積ませてあげたいと考えております。

賃金も発生し、責任感も身につけてもらい、チームワークや働き甲斐の在り方、就労観の醸成を本当の意味で体験してほしいと考えております。足りない部分とはまさに本当の意味の就労だと思っております。

ます。

宇奈月温泉では地熱発電プロジェクトと言う計画が動いており、電力の再生・温泉街の再生・若者の再生と言うテーマで我々を含んだ形での大きなプロジェクトが動き始めております。

他に飲食店を皆で就労・運営をしながら、本当の就労を体験・経験してもらおうとも、考えております。その為に新規 NPO 立ち上げや親の会の設立等も行っていく予定です。

どうぞ皆様お力をお貸し下さい。

そして、若者や地方そして日本の為になるようお力添え頂ければと考えております。



自立塾とサポステの様子(イベント等を通じてみる寮生とサポステ生)

榎本 隆志

ここにスタッフとして来て、半年が過ぎました。

殆んど同時に来られた寮生も半年前と今とは、だいぶ変化がみられます。

寮生は毎週みんなで運動したり、遊びに行ったりすることで、一人ひとりが他者とコミュニケーションとれるようになっていき寮内でも様々な場面で笑顔、笑い声がみられるようになりました。

最近来られた塾生たちも、徐々にではありますが、その環境に馴染み打ち解けてきているように感じられます。

集団で生活する利点は人と接する機会が多い為、コミュニケーションを取らなければならないので、そういった能力の向上に役立っているものと思われま

す。サポステ生につきましては、サポステの行事の時しか接する時間がない為(寮生と違い)、寮生より様々な点で少し時間がかかってしまいます。時間はかかりますが、イベント等に定期的に参加する人が半年前より増えているのは確かです。

定期的に参加されている人の次のステップにどのように繋げていくかが今後の課題と考えています。

寮生、サポステ生どちらに関しても普段、人と接する機会が少なかった人にとって運動やイベント行事等に参加出来る環境があるということは非常にいいことだと感じています。

まだまだ知識、経験が不足していて、失敗もしてしまいますが、少しでも来られた皆さまと同じ時間を共有し、楽しく居心地のいい場所を今後提供出来ていけばいいな。と思っています。

日常生活における自立塾の様子

水尾 千春

ここで働き始めてもうすぐ二ヶ月がたちます。

全く携わったことのない職種に飛び込んできたので、知識もなく、自分が誰かの為にならざる存在になれるのか心配でしたが、焦らずに人との関係を作っていこうと思い、今も自分なりに頑張っています。

寮生活に関して言えば、寮生の方が先輩にあたります。スタッフの方にももちろんですが、わからないことは寮生に聞いて、そこからコミュニケーションを取ってみようと思いました。みんな思った以上に質問にも丁寧に答えてくれましたし、雑談にも付き合ってくれました。最近では寮生とお茶会をするのが楽しみの一つになっています。

毎日の生活では、今までの生活とはガラリと変わったので、慣れるのが大変でした。

朝、6時に寮生と一緒に朝食の準備の手伝いをします。

みんなで食べてみんなで片付けをする。自分たちでやることで、「誰かがやってくれる」という気持ちも「自分がやらなければ」という気持ちにシフトしていきます。また、この時間に起きるので、乱れていた生活リズムが整い、夜きちんと眠れるようになりました。

午前中には掃除や研修を行います。

研修には、サポートステーションの利用者も一緒に参加します。話を聞く姿勢や、掃除の仕方にそれぞれの性格が表れて、どういう風にコミュニケーションをとるか、ヒントにしています。

午後には運動をすることが多いです。

こちらにも、サポートステーションの利用者が参加しています。社会人になってからは体を動かすといえば散歩くらいしかしていませんでしたが、こちらに来てから、運動する時間が比喩にならないくらい増え、筋肉痛がしばらく治りませんでした。今はそれなりにこなせるようになり、自身の成長を感じています。

食事の準備や掃除といった、生活する上で必要なことに自分の役割が見えてくると、最初は何をすればいいのかわからなかった寮生も自ら仕事を見つけて取り組むようになりました。みんながやっているから自分もやろう、という一歩を踏み出すのには単純だけれどもとても効果的な作業内容だと思いました。

自分自身、まだまだ戸惑うこともあります。毎日の生活の中で、邁進していきたいと思っています。



自立塾寮生の過去と現在

上村 嘉宏

1 1月よりスタッフとしてお世話になっている上村です。

私は自立塾が出来た約10年前から1年ほど経った後、3期生としても当塾に塾生としてお世話になっていました。その後、宇奈月のホテルに就職し、今度はスタッフとして戻ってきたことで9年近く当塾にお世話になっています。

当時から現在まで様々な塾生と知り合い、共に過ごしてきたのですが、最近の塾生に関して以前と比べて大きく変わったなど感じる場合があります。

これは時代の流れによるものかもしれませんが、パソコンの「ネットゲーム依存」の塾生が以前に比べ大きく減っていることです。

勿論、「ネット依存」の方や「ゲーム依存」の方は一定数居るのですが、以前のパソコンを利用していたものでなく、現在はスマートフォンを利用している人のほうが多数を占めています。

実際スマートフォンは現在簡易なノートパソコンよりも高性能となり、ゲーム自体も1~2年前のゲーム機と同内容のものを再現出来るほどです。

この技術の革新によるスマートフォンの高性能化は塾生にいくつかの変化をもたらしています。

まず最初に、以前のネットゲームは夜を中心とした1日中の接続が必要だった為、利用者は夜型の生活の子が多く、塾に来た当初は生活のリズムを整えるのに苦労していた。

これが現在では極端な夜型の子は少なく、朝遅刻する子も比較的少ない。

このことは一般生活を取り戻す上で、塾生は共同生活という部分にのみ集中できるため、ある程度の社会参加への道筋は以前に比べ時間短縮になっているかと思えます。

寮には塾生がパソコンを一定の時間利用できる部屋があるのですが、以前の子たちはパソコンの置いてある部屋や場所に決められた時間限度一杯に入り浸り、ゲームはしなくともネットやパソコンを利用した作業をしていることが多かった。

そのため、時間を制限してネットとの接点を減らしてやることで、依存状態からの脱却を促していました。

ただ、これが現在ではパソコン室のパソコンはほぼ使用されず、持参のスマートフォンでゲームやネットを部屋や移動中を問わず楽しんでいる為、パソコンの使用時間の制限が効果を発揮することは無くなってしまっています。

最後に前項とのつながりもあるのですが、スマートフォンは、携帯電話の後継でもある為、当然電話としての機能もあり、家族への連絡や緊急の連絡等の必要もある為、規制が辛いことが挙げられます。

このことが更に使用者をスマートフォンから遠ざけることを妨げて、依存から脱却しづらくしています。今後、合宿型施設を運営していくにあたっては、従来通りの「ネット依存」への対応ではなく、上記のような「ネット依存 (+携帯依存)」へと変わってきてつつある入寮者に則した対応を求められていくことになるかと思えます。

その答えは、これから彼らと関わっていく上で、自分自身も学び・勉強して探していくつもりです。

緑の宇奈月、ソフトボール大会試合風景



ソフトボール大会集合写真



料理対決！（丼物編）



美味しそうに出来ました～♪

今後の予定

実施日・行事	内容	場所
にいサポ 女子会 開始 1月23日 14時～	第一回女子会は、“お茶会”です。お菓子を食べながら ガールズトークで盛り上がりませんか？	にいかわ若者サポ トステーション
保護者の会設立 1月31日 14時 3F 研修室にて	今後の支援をさらに充実させていくためにも、また、様々 な角度からの支援体制も新たに確立も目指したいと思い、 保護者の会を設立していきたいと考えております。	宇奈月自立塾
宇奈月自立塾保護者懇和会&入塾背押しプラン 2月21日 15時～ 2月22日 13時解散	入塾者の保護者と、これから入塾を目指している保護者と で、報告会や懇親会を行いたいと考えております。 *別途ご案内申し上げます。	宇奈月自立塾
短期体験合宿 3月23日～29日	長期的な体験の前にまずは短期的に一週間体験してみま せんか？	宇奈月自立塾
集中訓練プログラム (予定) 4月2日～6月30日	集中訓練プログラムとは、基本的には共同生活をしながら、 生活リズムを整え、人間関係のスキルを磨き。社会に 出るために、最低限必要なビジネスマナーの修得をしながら、 自分にあった仕事を、様々な労働体験を通じて学んで いくプログラムです。	宇奈月自立塾
第7回ニート甲子園 4月23日	各団体汗と涙とプライドをかけた戦いです。毎年ドラマテ ィックな決勝戦になります。	黒部市中ノ口緑地公 園

※ 入塾は随時受け付けております

※ 詳細につきましては表紙の連絡先までお問い合わせください

※ にいかわサポステの詳しいスケジュールはサポステ通信をご欄下さい

会費納入のお知らせ

NPO 法人教育研究所は、皆さん方の会費を運営の資金の一部として使っております。内訳は会員通信費
40%、寄付 60%です。年会費は1口 5000 円ですが、何口でも構いません。そして、年会費はご自分が
入会した日から1年間です。継続を希望される方は、ご自分の期限が切れる前に継続の会費を納めてく
ださい。

横浜銀行 上永谷支店 (323) 普通 1442822 名義 特定非営利活動法人教育研究所

理事長 牟田武生

郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人 教育研究所

牟田武生理事長のプログラム等ご案内 横浜カウンセリング・その他のお知らせ

カウンセリング

横浜では土、日を中心に行っております。要予約、電話またはメールをください。

1時間 15000円（会員 10000円）1時間半 18000円（会員 13000円）

富山では月1回、宇奈月温泉で行っております。料金は横浜と同じです。

また、全国各地で行われる講演や研修の際に不定期に行っております。

メール相談は会員のみ、原則無料ですが、ころある方はご寄付をお願いします。

詳しくはお尋ねください。

講演

教育委員会・児童民生委員・親の会・私立学校連合会・PTA・福祉関係等様々なところで研修・講演も行っております。また、マスコミ関係の研修・番組企画・企画相談等もやっております。研修会の企画立案、コーディネーターもご相談ください。（有料）

留学&海外遊学・就労の会 価値観を変える海外旅行の会(自分探しの旅、認知行動療法の応用)

原則として、毎月第1日曜日午前10時～12時、横浜事務所で費用1回3000円（平成27年3月より）

① 文化交流は価値観を変えるか ② 具体的に留学や遊学とは ③ 海外で自立して働くには全て、要予約です。予約は電話にてご連絡下さい。

勉強会は講義・情報交流会・どう対応したら良いかの構成で行います。

連絡先：NPO 法人教育研究所横浜事務所 TEL:045-848-3761



ネット依存からの克服の会

原則として、毎月第1日曜日午前10時～12時、横浜事務所で費用1回3000円

① ネット依存とは何か ② ネットゲームに陥る心理 ③ 脱出するにはどうするか全て、要予約です。予約は電話にてご連絡下さい。

勉強会は講義・情報交流会・どう対応したら良いかの構成で行います。

連絡先：NPO 法人教育研究所横浜事務所 TEL:045-848-3761

牟田武生 宇奈月温泉で…

カウンセリングやアウトリーチの他に…当事者若者短期合宿を行います。

詳しくは宇奈月自立塾にお尋ねください。

ゲストルーム等あり宿泊も可能です。（会員割引あり）

連絡先：宇奈月自立塾 TEL:076-562-9681



寄付をお願いします

昨年4月から厚生労働省の委託事業である「若者サポートステーション」事業を黒部市新川地区で「にいかわサポステ」として開所、運営しています。

しかし、中央官庁の予算執行が概ね半年分遅れています。その額は2000万円を超えています。半年分の経費の立替資金、その中には、税金や年金等、公的支払いも含まれるが猶予はありません。支払いが遅れれば14%強のサラ金よりも高額な延滞金が付きます。

だが、非営利団体は利益追求を目的にしていませんから余剰金はありません。理事長の給与はないのは当然ですが、正規職員の一部は給与の支払いを遅らせても、その職員の公的支払いや運営費に充てなければなりません。

やせ細る年度末です。NPO法人教育研究所の運営はまだまだ安定した状況だとは言えません。研究投資、人材投資等にも相当の予算が必要になってきます。

会員の皆様含め多くの方々から温かい寄付をお願いしています。認定NPOになるためにも、まだ、まだ、足りません！寄付は次の銀行、郵便局からお願いします。

横浜銀行 上永谷支店 (323) 普通 1442822 名義 特定非営利活動法人教育研究所

理事長 牟田武生

郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人 教育研究所

編集後記

長時間の移動、講演や研修をしてまた移動、さすがにそれが連続すると疲れる。65歳以上なので、JRのジャパングを使い3割引乗車券を買う。その分をグリーン車代に回し、ゆったりした席で眠りたい。しかし、最近、若い人がグリーン車に乗ってきて仲間同士大声で騒ぎ、VIP気分になる輩もいる。車掌は大切なお客さまなのか、顔を顰めるが注意もしない。思わず、「静かにしてください」と注意したら、うるせいくそ爺とばかり、睨みかえされた。学校教育も家庭の躾も終わった時代なのかな

でも、よいこともある。自宅に戻るJRの車内で隣に、多動傾向を示す知的障害を持つ男の子が座った、本を読むのに気が散るなど思っていた。私が思わず、くしゃみをすると、その子、「大丈夫と…」私の目を見つめて言う、つぶらな瞳は純粹だった。(ム)

